

視覚障がい者に優しく

【うるま】社会福祉法人県社会福祉事業団「具志川厚生園」（金城清安園長）は21日、うるま市天願の同園で、視覚障がい者に配慮し改修した養護老人ホームの内覧会を行つた。2016年度の県補助約2300万円)を受け、50床のうち10床をバリアフリー化するなど専用スペースに改修。4月から受け入れを開始した。



老人ホームの施設改修

具志川厚生園

県内で視覚障がいがある高齢者に配慮した養護老人ホームは初めて。

10床は、段差があつた和室の床を平たくして洋間に改修。障子も防火性カーテンに変更し防災面に考慮した。移動しやすい環境を整えるため、玄関やエレベーター前、トイレ、食堂付近などに施設内を音声で案内する装置を八つ整備した。

部屋から風呂場や食堂などに行くための動線部分に新たな手すり、点字ブロックなどを設置。非常階段付近には転落防止門扉も設置した。県外の専門施設での職員研修を行い、視覚障がいのある高齢者への生活支援や施設運用などを学ぶ人材育成も実施

転落防止のために階段付近に設置された門扉||21
日、うるま市・具志川厚生園

養護老人ホームは、経済的な理由や在宅での生活が厳しいなどの問題を抱える65歳以上の高齢者を対象に、市

した。

町村の措置によって入所できる。いかに生活環境になじませるかの支援が必要。運用しながらさらにニーズに合わせて対応したい」と話した。

養護老人ホームでは50床のうち、現在利用者は27人で定員割れとなっている。

視覚障がいに配慮 具志川厚生園改修

養護老人施設で県内初

音声案内／転落防止柵／防火

【うるま】県社会福祉事業団はこのほど、介護老人福祉施設・具志川厚生園（うるま市天願）の10床を視覚障がい者が利用しやすいよう改修した。県によると、視覚障がいに配慮した設計を取り入れた養護老人ホームは県内初。人材育成にも取り組み、4月から受け入れ

改修後の施設を視察する関係者||21
日、うるま市天願の具志川厚生園

る体制が整つている。内覧会が21日、開かれた。人の気配を察知するセンサーが設けられ、「右が食堂、左が居室方向です」などと音声で案内。廊下にも誘導ブロックが敷かれている。手すりはできるだけ切れ目がなくなるよう増やし、階段入り口にも転落防止の柵が設置された。寝泊まりする個室も和室から洋室に変え、段差をなくし、障子から防火カーテンに代えた。具志川厚生園では、職員

8人が県外施設で研修を受けた。東京の聖明園曙社に派遣された支援員の安里信哉さん(29)は、「利用者が来て良かったと思える環境をつくりたい」と語った。現在は10床とも受け入れ可能。在宅での生活が厳しい経済的な事情がある65歳以上が対象。希望者は、住んでいる市町村窓口に申し込み。市町村の入所判定委員会が措置を決める。

同園の担当者は「ニーズはある。いかに生活環境になじませるかの支援が必要。運用しながらさらにニーズに合わせて対応したい」と話した。

具志川厚生園

視障者配慮の居室完成

県補助活用し転防柵等設置

視覚障がい者に配慮した養護老人ホームの整備を目的に、うるま市の具志川厚生園で進められていた施設改修工事が3月末に完了し、4月21日に同園内で内覧会が開催された。

県では、社会福祉法人沖縄県人沖縄県視覚障害者福祉協会からの直養老人ホーム設置に関する要望等を受け、平成26年度から視覚障がい者に配慮した居室整備の検討を開始。昨年度は、

具志川厚生園を運営する社会福祉法人沖縄県社会福祉事業団に対し、空き室10床を視障者対応居室に改修する費用や、施設内への視障者の安全確保に資する備品設置費等に対する補助（2,277万2千円）を実施している。養老ホームへの視

障者対応居室整備は、県内初となる。改修工事では、既存の転落防止柵や通路の手摺は、事故を未然に防ぐ上で非常に効果的。特に入居したばかりで施設での生活になれていない方の安全確保に繋がる」とコメント。

また、県高齢者福祉介護課の担当者は「改修工事に合わせて、県外の同様施設で研修を行ななど視覚障がい者話した。

修したほか、施設内に転落防止柵や誘導用ブロックが設置され、視障者が生活しやすい環境が整備された。

県社会福祉事業団の又吉雄洋氏は「今回の事業で設置した階段前の転落防止柵や通路の手摺は、事故を未然に防ぐ上で非常に効果的。特に入居したばかりで施設での生活になれていない方の安全確保に繋がる」とコメント。

また、県高齢者福祉介護課の担当者は「改修工事に合わせて、県外の同様施設で研修を行ななど視覚障がい者話した。

視覚障用に改修された
居室

